

「こころ」育てる授業づくり・  
子どもの変容を目指した

学級づくり 中村 力  
授業づくり 宮本 哲

高学年男子の難しさ：群れる、自己肯定感が低い、学力が低い。次のような取り組みをする。

- ① 南中ソーラン、ハッピをもらえるまで、班ごとに試験。
- ② 日記で子どもたちとの関係づくりを求めている。
- ③ 週に1回書かせて、しつかり返事を書く。(曜日ごとに7人ずつ。)
- ④ 学級通信で、子どもをほめ、教師の思いを伝える。
- ⑤ 朝の会で先生のスピーチ。
- ⑥ なんちゃって自問清掃。
- ⑦ ねらいをもって学級レクをする。(ちよこちよこたくさんする。)

人間関係の稀薄さを何とかするために。

学力づくり・授業づくりにも力を入れていく。

「自分」を表現できる人を育てよう

物語学習  
井上 佳和

物語学習ゴールイメージ：自力で読む力をつける。人物描写から心情を読み取り、自分なりの主題をもつこと。知識の確認→伝達→活用(そのくり返し)

物語は場面(時・場・人物)が変われば変わる。中心人物が出来事を通して、どう変わったかが大切。

2・3学期の国語・算数授業の

攻略法 荒井 賢一

算数、練習問題から逆算して授業を組み立てる。まちがったことで埋められると正しいことが入らない。単元を通じたやり方を早いに教える。

説明文には必ず主張があり、その主張を読者に引き込むために、まずは一般的な考え方を紹介してから否定する。そして、主張を補強するための具体例を挙げる。

「自分」を表現できる人を育てよう

井上 佳和

「自分を表現する」ということを「書く」ことから追求する。先ず文章構成(序論・本論・結論)を押さえて書かせる。毎日、帰る前に日記を二百字以上、五分間で書かせる、書けるようになった。

「話す・聞く」では、朝の時間を利用して、対話を行わせた。ペアで題を決めて話すことで、同意、反応、質問、まとめなどの技能を付けることもできた。

また、必ず自分の意見を作らせるように心がけた。自分の意見を表す前に、必ず形にすることを行わせ、発表に備えさせた。発表は、「自由発表」の形式を大切に、自分から参加する力や他の子を後押しする力が付いた。学年集会を行い、発表する機会を多く作り出す等、学年団での取り組みを大切にした。

「表現する」ということで、固定した格差を打ち破るきっかけを教

師が作ることができた。

国語指導における

久保 授業の追実践

漢字・物語文・説明文

丸小野 聡暢

「説明文」に書かれたことを読み取ることは当然で、筆者の考えを読み、自分の意見を書いて表現することに生かせなければいけない。「物語文」では、「予習を生かして、事前に考えを持って授業に臨むようにした。どの子も、同じ土俵に乗って授業を行うことができた。

「できた」を実感させて中学校へ

計算や漢字習得の

最後の取り組み

山田 周司

「できた」「できる」ということを実感して、自己有用感を高めるためには、基礎的な計算力や漢字を書ける力が必要。中学校へ力を付けて送り出すことが大切。さかのぼり指導に取り組んで、自信を持って中学校へ行かせよう。